

SC-62. どこからシュートしますか？

“Masters C”

by Lary Faris

抄訳：薩川俊三

1994年4月、私はウインターヘブンで第35回フロリダ・シャフルボード・マスターズを見ました。マスターズは、秋、冬の6か月間に、フロリダ各地のコートを巡回して、米国とカナダのトッププレーヤーが行なうトーナメントの、総合成績上位のプレーヤー男女各8名が、総当たりで行う決勝戦です。エキスパートのプレーは参考になるので、エキスパートがどこからシュートするかを見ました。

ディスクをシュートするエリアは、イエロー、ブラック共にコート真中から外側に向けて、1番、2番、3番、4番と名付けています。

私は、グレン・ペルティア、メアリ・エルドリッジ、及びジャックレス・バージェロンに注目しました。

グレン・ペルティアは、一般的なプレーをするプレーヤーで、ディスクのショットの86%が1番からでした。クリアするショットの全てが1番からで、4番を使ったのは、ディスクを隠す時と、回数は少ないが、部分的に隠れた相手のディスクをクリアする時だけでした。148ショットの中の2回だけ、1番と4番を使いませんでした。この2回は、4番の代わりに3番を使い、非常に大きいドリフトがあるタンパ背後へのショットと、理由は分からないが、失敗したショットでした。グレンは、1番から非常に正確にシュートができるので、いつも使っていると、私に言いました。

メアリ・エルドリッジは、1番からのショットがグレンより多く、91%でした。私が見た44ショットの中の4回だけ、隠すショットで4番を使いました。

ジャックレス・バージェロンは、グレンやメアリよりも、コート上のプレーが多いボード・プレーヤーです。ショットの70%は1番を使い、11%はディスクを隠す時に4番を使いました。残りの19%は2番からで、相手が置いたセントピートを突いてシュート・ディスクを自分のタンパに置き換えようとする時と、相手の得点ディスクを、シュート・ディスクで置き換える時でした。

1番からは90%成功し、2番からは67%成功しました。ジャックレスはこの成功率の差を考えたほうが良いかも知れませんが、彼は「1994年マスターズ」で3位に入賞した名プレーヤーです。

ジャックレスはクリア戦法よりも、むしろボード・プレーが非常に成功しています。目立ったのは、相手が置いたセントピートを突いて、自分のシュート・ディスクを自分のタンパに置き換えるショットでした。ジャックレスは2番から穏やかなスピードでシュートして、相手が置いたセントピートの内側の端に当てます。成功すれば、シュート・ディスクが自分のタンパになり、相手のセントピートはコートから出ます。図を参照。

私はこのショットを使おうとは思いません。

(米国のトッププロ Lary Faris が新聞に連載した“Shuffleboard Coach”の抄訳)

